

社会人1年目、任された大仕事・・・大学院で学んで本当に良かった

ソフトバンクテクノロジー株式会社 勤務

修士課程 管理工学専攻 平成 18 年 3 月修了

高尾 知宏 さん (庄司・山口研究室出身)

(福岡県立山門高等学校)

昨年 3 月に大学院を修了した高尾さんはまだ 1 年未満の新人ですが、時代を先取りする IT 企業に就



職し、その後の成長と活躍は目を見張るものがあります。その原動力となっているのは、大学院での研究活動です。高尾さんから届いた力強いメッセージを紹介します。

プロフィール
ソフトバンク・テクノロジー株式会社
ネットワークソリューション事業部 テクニカルサポート部 アドバンスドサービスグループ勤務

経験がやる気と自信に

大学院時代は、山口明宏先生の下で複雑系の工学利用として、カオスを用いた新しい通信方式の研究を行っていました。仕事をする上で、このときの成果が全て役に立つわけではありませんが、この研究や大学院生活で得た経験は、現在の僕に大きな影響を与えているのは間違いありません。

ここで身についた論理的な考え方や客観的な判断、新しいことへの取り組み方は自分にとって大きな自信になりました。

現在、ネットワークの設計や構築を行う事業部で仕事を行っていますが、これまでの経験を評価していただいたのか、ネットワーク監視システムの構築を任されました。

社会人 1 年目で仕事を任された点に関しては不安もあります。しかし、それ以上に、「開発への要求に対して一番良い方法で応えてみせる」と、これまでの経験が自信とやる気を与えてくれます。

時には不安になることも

学生の時は僕もそうだったように、取り組んでいる研究や学んでいる内容が今後役に立つのだろうか不安になることがあると思います。でも、大丈夫です。不安にかられながらも大学院で得た経験は本当に役に立っています。

僕は、社会人になった今、大学院に進んでよかったと思います。現在、学生の皆さんには、せっかく進学したので、是非いろんな経験を身につけてください。

研究を突き詰める事も、様々なことに興味を持っていろんな世界に触れるのも良いと思います。そこで得た経験は、必ずあなたの力になります。

国際化を推進・・・米国スタンフォード大学とインターネット会議

国際化を進める本大学院では、今年 1 月 19 日(金)に米国スタンフォード大学との間で、インターネット会議が行われました。双方のパソコンにカメラを



取り付け、まるで同じ場所で行われているように会議がリアルタイムで進みました。本学とスタンフォード大学が共同で研究しているテーマで、文部科学省から選定されている大学

教育の国際化プログラム「国際協力型 SE 育成プログラムの開発」(責任者・今村正明教授)の一環です。

今回の貴重な経験をした 3 人から大興奮のレポートが届きました。

【収穫はブレインストーミング】

修士課程 知能機械工学専攻 1 年

近藤 篤 さん (河村良行研究室)

(山口県立下関工業高等学校)

アメリカに行ってプロジェクトを一緒に取り組んだのですが、日本と違い研究室等が無い為か、自由な時間にプロジェクトに取り組んでとても自由に活動をしている印象を受けました。プロジェクトの進行はスタンフォード大学に行く前は学生だけで取り組んでいると思っていたのですが、実際にはコーチ(指導教官)やあちらの企業が一体となって取り組んでおり、企業とは週に 1 度、コーチとはほぼ毎日話し合いを行っている形でした。話し合いの際には**ブレインストーミング**と呼ばれる、相手の発言を否定しない自由な話し合いを用いていました。意



見は否定されないのですが、英語が得意ではない事があったか、意見を言った後に、相手がこの意見に対して、どう思っているかが分からなく不安になる事が多々ありました。この様な手法は知っていましたが、実際に使った事は無く、ましてや英語で説明する事は初めてだったので、緊張はしましたが、とてもいい経験となりました。

【モノ作り、アプローチの違いにワクワク】

修士課程 知能機械工学専攻 1 年

西本 怜史 さん (河村良行研究室)

(熊本県立天草高等学校)

私は、海外の大学との共同研究を行う上では言語的な壁があるであろうことは予想していました。しかし、それ以上に**モノ作り**



りに対する基本的な姿勢の違いがあることに驚かされました。今回のプロジェクトには「移動可能な歯科用ポータブル機器を製作する」という最終目標があります。私たちは既存のシステム全体をなるべく効率的に使用するための改良を行い、必要最小限のエネルギーでシステムを駆動する方向で考えを進めました。それによって小型化を可能とし、性能を犠牲にささなければ様々な効率的アプローチができると考えたからです。対して、スタンフォードのチームはシステム全体に関する改良ではなく、エンジンに相当するコンプレッサーの小型化及び強化を行うことに専念しました。オーバースペックとも言える必要十分なシステムを構築し、最適化する手法です。対極的な考え方で作り出されるシステムがどのような特徴や相違点を持つものになるのかは、非常に興味深く感じます。

【言葉だけでなく文化の理解も大切】

修士課程 電気工学専攻 1 年

北嶋 浩治 さん (梶原寿了研究室)

(福岡県立朝倉高等学校)

スタンフォード大学は全米でもトップクラスの大学です。キャンパスも広くその広さは甲子園球場 830 個分の広さがあります。キャンパス内



の移動には大学が運営する無料のシャトルバスが出ています。これは一般の人でも利用できるものです。キャンパス内には複数の図書館や教会などもあり一つの町の様な光景でした。学内の食堂は中華、イタリアン、日本食などあらゆる国籍の料理があり、とても美味しかったです。このスタンフォードでの経験では特にコミュニケーションの難しさを感じました。**お互いの文化、音楽や映画などに興味を持つこと**はコミュニケーションにとって言語を学ぶことと同じく大切なことだと感じました。

編集後記

◆ある専攻の修士論文公聴会にて◆

先日、ある専攻の大学院生より、修士論文の公聴会があるので聞きに来ませんかとの招待を受け、行って来ました。これは修士課程 2 年間の集大成であり、それを多くの先生や学生を前にして発表し、厳しい審査を受けるものです。その高度な研究課題には驚かされましたが、何よりも堂々と発表する姿は、2 年前の入学時とは劇的な変化でした。20 分間の発表の後、次々と浴びせられる多くの質問、そして鋭い質問・・・しかし臆することなく冷静に堂々とした受け答え。学生が成長する喜びと醍醐味を、指導教員が最高に味わう瞬間だろうと感じた公聴会でした。

待望の女性の学位取得 第1号はミモザさん。しかも“飛び級”

博士後期課程 知能情報システム専攻 2年
Mimoza Durresi (パロリレオナルド研究室)

今年2月、大学院で飛び級制度によって、待望の女性博士が誕生しました。学生として母親として社会人として超多忙の日々を過ごし、ようやく手にした博士の学位。

ミモザさんが日本で得たものと学位は、これからの彼女の研究者としての人生に大きく貢献するでしょう。

「時は金」強い意志と情熱で

古いことわざがあります「時は金である」。私はこのことわざを考えながら、難しい博士後期課程を2年間で修了するにはどうしたら良いかと思いました。まず、一つは私の指導教員がパロリ・レオナルド教授であったことはとても良かった。パロリ先生は世界の情報ネットワーク通信分野のリーダーであり、パロリ先生の指導があったればこそ2年間で修了できたと思っています。とても感謝しています。博士後期課程に入学後は、とても一日一日を頑張りました。時間を大事にして、博士後期課程を修了するために何が重要で大切なのかよく考えました。色々な問題がありましたが「**強い意志があればきっとできる**」と思い頑張りました。もう一つは専門に対しての情熱です。私は自

分の専門が大好きです。もちろん、難しいし、時間も必要です。毎日、研究と論文調査をしな



学位論文公聴会で発表するミモザさん

から新しい研究と新しい解析法を見つけなければなりません。また、自分で提案する手法は理論と実験で確かめる必要があります。この長く難しいプロセスは強い意志と冷静な判断力がなければ乗り越えることはできません。

この2年間、私は、学生として、また母親として日々の生活上のバランスを取ることが必要でした。子供のために時間をとりながら、授業と研究の時間を見つけなければならなかったのです。大学院の授業は良かったのですが、研究時間を確保することは、とても大変でした。

小さい子供（現在1才4ヶ月）は24時間注意しなければならず、そのため寝る時間も削りました。これからも今の研究を続けていくために日常の時間配分を工夫して研究時間の拡張を考えています。

アメリカと日本の教育システムは共通点と異なる点がありますが、福岡工業大学の社会人受け入れシステムは良いと思います。このような昼夜開講システムを利用すれば博士後期課程の学生が増えると思います。

美しい国“日本”のために

私は福岡工業大学と日本について大変素晴らしい印象を持っています。日本、日本人、日本の文化が大好きです。この2年間、福岡工業大学の先生方と事務の方々に大変お世話になり、感謝の気持ちで一杯です。

この機会をかりて日本人の学生にこのメッセージを送ります。**日本と日本の文化を大事にしてください。**そして、自分のため、家族のために、日本のために一生懸命頑張ってください。そうすれば、日本はこれまでもそうであったように全世界にリーダーシップをとれるし、もっと美しい信頼される国になると思います。

新しいこと “Something New” を理解し実現するために

電子情報工学専攻

電子物性工学

加藤 友彦 教授 (工学博士)

【趣味】テニス、囲碁

先生の横顔

趣味は学生時代からの囲碁と30年来のテニス。加藤先生は、学部は電気工学科の卒業で、一旦就職されましたが、壮大な物理の魅力にとりつかれ、再び学問の世界へ。それ以来研究に没頭。磁性や表面の分野で多くの論文を発表されました。理論的研究者には定年がなく、議論の相手と文献さえあれば、いくつになっても研究ができるというその分野は、「最も面白く、湧き出るような喜びを感じる」という物性の世界。オフィスアワーを利用して数学、物理の基礎教育を行い、学生のレベルアップのみならず、学生とともに学ぶこと研究することの喜びを共有されています。みなさんも加藤先生と一緒に広大な無辺な物性ワールドを堪能してみませんか。

専門分野	物性理論
研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> 半導体表面の構造相転移に関する理論的研究 磁気混晶の磁気構造と相転移に関する理論的研究 複雑な系の最適化手法の研究



写真は加藤先生と物性ワールドの魅力に引き込まれた修士課程1年の古賀陽介さん(左)と北崎保さん(右)。

【先生の話】

大学院では学部時代と違って研究が中心になります。学習と研究の違いは、研究では今までに知られていない何か新しいこと(Something New)を理解あるいは実現することにあります。私の研究室では主に、物性(磁性、表面)の分野で新しい原理的な発見を目指して研究しています。これまで10数人の院生が就職後に直接役に立つこともない基礎的な問題に目を輝かせて取り組んできました。未解決の問題に全力をあげて取り組み、相応の成果を得た経験は社会に出てから、彼らの目に見えない力の源泉になっていると思います。また、指導教員や同僚の院生、卒研生との研究だけにとどまらない人間的な交わりは、**長い人生を支える精神の土台の形成に資すること大である**と確信しています。

平成20年度入試日程決定

【平成20年度入試の日程が決まりました】

	願書受付期間	入学試験日	合格発表
推薦入試	19.5.14(月)~19.5.18(金)	(面接) 19.5.25(金) (筆記) 19.10.6(土)	(内定発表) 19.6.13(水) (合格発表) 19.10.18(木)
一次入試	19.9.25(火)~19.9.28(金)	(筆記・面接) 19.10.6(土)	19.10.18(木)
二次入試	20.2.12(火)~20.2.15(金)	(筆記・面接) 20.2.22(金)	20.3.7(金)

【平成18年度修了生就職先一覧】

ACD(アジア情報開発(株))グループ、イー・アンド・エム(株)、石川金属工業(株)、(株)Wave Technology、(株)映像システム、(株)エイブルジャパン、(株)エス・アイ・インフォジェニック、(株)エス・ケー・アイ、NECネットエスアイ(株)、(株)エムディアイ、(株)大分CSK、山九(株)、(株)システムクリエイト、(株)システムサービス、シチズン時計(株)、新日本非破壊検査(株)、住商情報システム(株)、センチュリーインフォテック(株)、(株)ゼンリン、ソフトウェア情報開発(株)、太陽石油(株)、(株)高田工業所、(株)テラプローブ、東京海上日動システムズ(株)、東京通建(株)、東洋ゴム工業(株)、日本コムシス(株)、(株)日本コンピュータ開発、(株)日本システムディベロップメント、(財)日本総合研究所、(株)日本電気化学工業所、ネット情報システム(株)、ネットフォース(株)、パナソニック半導体オプトデバイス(株)

就職率

100%

◆大学院に関するお問い合わせ◆

福岡工業大学大学院事務室 担当：内田、常軒
Tel:092-606-6996 E-Mail:master@fit.ac.jp